



お客様、社員と家族の幸せのために、 社会に役立つ活動を通じ、 地域に貢献できる持続可能な企業を目指します。

岐阜トヨペットは 2026 年に 70 周年を迎えます。「人にとって車とはなんだろう」創業以来取り組んできた、人と自然と車がいつまでも一緒に走り続ける社会の実現。そして、これからの岐阜トヨペットのビジョンを加藤茂樹社長に語っていただきました。

岐阜トヨペットは1956年の開業以来、自動車販売やメンテナンス事業以外に、様々な取り組みを行ってきました。そして、今回環境レポートを発行しました。

70周年を迎えるにあたって岐阜トヨペットは、今まで様々な環境や地域社会への貢献活動を行ってきましたが、もっと社内外に知ってもらい、社員にはそれを誇りに思ってもらうために、「環境レポート 2020」を発行することにしました。そこに紹介されている活動は、経営理念の実現に向かっていきます。岐阜トヨペットの存在意義に通じるものです。

60周年を迎えた後に次の70周年に向けたビジョン

70周年ビジョン「お客様に繰り返し繰り返しわが社の商品やサービスをご利用いただき、太く長く、お付き合いをしていただける存在になる。」は、本業も本業以外の取組でも、社員の幸せとお客様や地域の方達との繋がりを大切に、人と自然と車がいつまでも一緒に走り続ける社会を目指しています。

農業ではなく「食育事業」を 本業に加えました

食育事業は何かきっかけだったのでしょうか。
そして、農業ではなく、「食育」なのですね。

農業ではなく食育事業なのです。未来を生きる子ども達が、どこでどうやって作ったかわからない物を食べるのではなく、毎日食べるものが本当に安全であるかを知ることが大切だと思います。これはぜったい安全というものを、まずは自分達で作ること。そして子ども達に畑で野菜ってこんな風になっているんだ、こうやって採るんだ、ということを経験してもらいます。それと同時に食育なので、なぜこの野菜は安全で栄養価が高いのかを知ってもらう。こうした活動を通じ、仲間を増やして、農業や化学肥料を使わない手間のかかる有機農業を、たくさんの人達と意識を持って取り組みたい。立ち上げて3年目になりますが、ただ作物を栽培して販売するだけでは、なかなか収益は出ません。10年後には自然食レストランや宿泊して農業体験ができる「里山テーマパーク」にしたいと考えています。岐阜は自然が豊かで、都会にアクセスがしやすいので、多くの人に都会から来て農業や自然を体験して欲しいと思っています。

食育事業で作った野菜や米を販売する「移動マルシェ」もやっていますね。

食育事業で生産した野菜や米、食品を車に積んで、買い物に困っている地域で移動販売を始めました。人口減少によってスーパーが撤退したり、高齢化が進み免許を手放す人が増えて、日常の買い物に困っている地域があることを知りました。車を手放したらお客様との関係が終わるのではなく、地域の困っている人のためになる事業を始めたのです。買い物に不便なのは過疎地だけではなく、岐阜市内の元ニュータウンといった、若い人が出て行った地域もあります。こうした地域の自治会から引き合いが多く来ています。



県内自動車販売店唯一認証取得の 環境マネジメントシステム ISO14001

岐阜トヨペットは環境活動に熱心に取り組んでいますね。

もともと自動車ビジネスには環境に負荷をあたえるという側面があります。ガソリンで自動車を走らせると排気ガスを排出します。使用済みのオイルやエアコンのフロンガスは適正に処理をしなければ環境汚染につながります。だからこそ、環境マネジメントシステム ISO14001でそうした環境負荷を少しでも低減し、地球環境を考えた取り組みを2002年から行っています。

そしてカーライフを安全安心にする取り組みも推進していますね。

車を販売している者として、安心・安全の提供というのは、重要な義務だと思っています。自動車を常に良い状態で安全にお乗りいただくためには、点検や整備が必要です。そしてぶつかりにくい車、安全装置の付いた車を積極的におすすめすることも私たちの大切な役割です。交通安全という点では、今まで交通安全の教材を幼稚園や保育園に提供していました。昨年からさらに1歩踏み込んで、子ども達に対し交通安全教室を行い、事故をしない・巻き込まれないための働きかけを始めました。将来のドライバーになる子ども達に「横断歩道の前では自動車は必ず止まること」を学んでもらいます。そのことによって同時に子どもたちの親にも、交通ルールを再認識してもらおうきっかけになりました。

「岐阜トヨペットがあってくれて良かった」と、 地域に頼りにされる取り組みをしています

女性ドライバーのサポート活動を女性チームが行っています。

女性社員数名で「サンフラワーズ」というプロジェクトを結成し、女性のカーライフをサポートすることで、女性一人でも訪れやすいディーラーを目指しています。相対的に言うと女性は車にあまり詳しくない方が多いです。専門用語を使われたらチンプンカンプンだと思うので、だれにでもわかりやすく安心して車を選んでいただけるように心掛けています。また、女性一人でも入りやすく、居心地の良いお店づくりにも取り組んでいます。各店舗ではフラワーアレンジメントやクリスマスリース作りなどお客様参加型の体験イベントを開催しています。こうしたイベントによって大変多くの女性のお客様に店まで足を運んでいただけるようになりました。フリーペーパーやインターネットを通じてお出かけ情報なども発信し、「女性にもっとカーライフを気軽に楽しんでもらおう」というプロジェクトです。こうした活動は、女性社員の能力を伸ばす活躍の場でもあります。

岐阜トヨペットはたくさんの環境保全を行っていますね。

2012年から始まったトヨタソーシャルフェスに、たくさんの社員がボランティアとして参加しています。岐阜県では長良川クリーン作戦として河川敷や堤防の清掃活動をしています。このイベントの参加者は定員100名の一般公募ですが、各トヨタの販売店から社員がスタッフとしてお手伝いしています。岐阜トヨペットでは自ら手を挙げて毎回80名ほどが参加しています。これだけ多くの社員が自主的に参加していることは、誇るべき会社の財産です。

1976年に始まったトヨペットふれあいグリーンキャンペーンを長年継続しています。ここ数年では単なる植樹ではなく、地元の幼稚園・小学校・特別支援学校の生徒のみなさんと一緒に花壇づくりなどを行っています。



岐阜トヨペット 70 周年を迎えるにあたって

まだまだ見えていない大きな話ではなく、今やっていることの延長だと思っています。70周年ビジョンとして掲げているように、社員とお客様の関係、会社と地域の関係をもっと深めていきたいです。社員とお客様は、家族や友達のようにお互いをよく知っていて、信頼できる関係。会社と地域は、町内の人、地域の人と交流し、そこに岐阜トヨペットのお店があることを感謝してもらえようような関係。そして、社員一人ひとりが、仕事が楽しく、前向きに一生懸命で、人として成長できること。お客様や地域のために自ら進んで貢献できる人ばかりの集団になる、ということが一番の夢です。

最後にこれから岐阜トヨペットの目指す SDGs の目標は？

それは SDGs 11「住み続けられるまちづくり」です。やはり当社は岐阜という地域、地元で根差した企業であり、各店舗を通して地域との繋がりを大切にしています。岐阜は自然が豊かな素晴らしい環境を持っている地域です。その環境を守り、活かし、岐阜に住むすべての人の暮らしが、本当の意味でもっと豊かになるお手伝いをしていきたいと思っています。



岐阜トヨペット株式会社 代表取締役社長 加藤茂樹